ニュース
図書館から世界が見える　No. 69　千葉県立図書館　2025年9月

世の中で話題になっているニュース等について知り、考えるためのヒントを得られるような資料情報をご紹介します。

国際芸術祭

最近の新聞記事から

「見る・聞く・話す・参加する イベント 千葉国際芸術祭2025「ガード下神殿に願う　風鈴短冊づくりと奉納ワークショップ」」（『東京新聞』2025年7月27日 千葉版 朝刊 15面）

「教えて！ ちばのマイスター：アートでまちは元気になる？ 千葉芸術祭総合ディレクター　中村政人さん」（『毎日新聞』2025年1月26日 千葉版 朝刊 19面）

2025年9月19日（金）から千葉市で「千葉国際芸術祭2025」の集中展示・発表が始まります。国際芸術祭（国際美術展）とは、主に現代美術を１か所に集めた大規模な展覧会のことを指します。見る機会の少ない世界の美術作品の紹介や、美術関係者の交流という目的を持っています。２年に１度開催される「ビエンナーレ」、３年に１度の「トリエンナーレ」など、様々な国際芸術祭が世界中で開催されています。今回は、国際芸術祭が地域で果たしている役割について考え、2025年秋以降に開催予定の国内の国際芸術祭についても紹介します。

千葉国際芸術祭2025
Chiba City Arts Triennale 2025
ちから、ひらく。

【国際芸術祭の概要と、地域との関わり】

ビエンナーレの現在 美術をめぐるコミュニティの可能性	暮沢剛巳，難波祐子編著　青弓社　2008 東部：7069/95　図書
国際美術展とはどのようなイベントなのか。国際展の概要を踏まえつつ、アジア各都市における動向や、日本国内で開催されている横浜トリエンナーレなどを取り上げ、都市との関係性、グローバリゼーション、市民参加といった視点から、その社会的・文化的意義を明らかにする。	
ヴェネチア・ビエンナーレと日本	国際交流基金企画　平凡社　2022 西部：70216/37　図書
現代まで続く世界最古にして最大級の国際芸術祭であるヴェネチア・ビエンナーレ。過去70年のなかで作品を発表した約180名の日本の作家とその作品を紹介し、日本参加の歴史を辿る一冊。	
瀬戸内国際芸術祭と地域創生 現代アートと交流がひらく未来	狭間惠三子著　学芸出版社　2023 西部：7069/81　図書
毎回およそ100万人が来場し、100億円規模の経済波及効果を生み出す瀬戸内国際芸術祭。本書では、芸術祭が地域にもたらす変化と、それを支える行政のあり方を探究する。日本独自の進化を遂げた地域型芸術祭を知るための入門書としてもおすすめ。	
アートディレクター北川フラム 現代アートの芸術祭は地域をどう開いていったか	『週刊新潮』（第68巻　第３号　2023.1） p98-101　中央　雑誌
「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」や「瀬戸内国際芸術祭」で総合ディレクターを務めた北川フラムへのインタビュー。成功の秘訣をはじめ、ボランティア・サポーターの支援、地域住民と芸術祭との関わりについて語っている。	

【千葉県と国際芸術祭】

百年後芸術祭 **～環境と欲望～内房総アートフェス**	小林武史，北川フラム，内房総アートフェス実行委員会監修 現代企画室　2024　中央：C706/38　**図書**
2024 年に千葉県の内房総５市を舞台に開催された「百年後芸術祭 -内房総アートフェス-」の公式記録集。「アート」「テクノロジー」「音楽」「食」、そしてそれらを通じた「学び」を通して、百年後の未来を考える。本書では、全展示作品が収録されているほか、５市それぞれの特色や来場者数などのデータも掲載している。	
いちはらアート×ミックス　2020+ **房総里山芸術祭**	北川フラム，いちはらアート×ミックス実行委員会監修 カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社『美術手帖』編集部　美術出版社(発売)　2021 中央：C706/18/20　**図書**
千葉県市原市で開催された「いちはらアート×ミックス 2020+」の公式ガイドブック。作品ガイドのほか、芸術祭の見どころや、現代アーティスト西野達のインタビューなども収録。小湊鉄道の駅舎や車両を活用した作品や、休校となった小学校の校舎を舞台にしたアートプロジェクトなど、市原市の歴史や文化の魅力を引き出す展示から、何気ない日常の中にある美しさを再発見できる。	
アートプロジェクトの変貌 **理論・実践・社会の交差点**	吉田隆之ほか著　水曜社　2025 西部：7069/83　**図書**
パンデミックを経験し、世界のあり方が大きく変化した 2020 年代において、芸術祭のあり方もまた、変わりつつあるのか。領域横断的な議論を通じて、これからのアートの行方を展望する。 事例として「いちはらアート×ミックス ― 森ラジオステーション×森遊会」が取り上げられている。	

【まだ間に合う！ 2025 年秋以降に行ける国内の国際芸術祭３選】

千葉国際芸術祭 2025	https://artstriennale.city.chiba.jp/　**Web 情報**
地方で開催される芸術祭の多くが、観光誘致を目的とするのに対し、都市型の千葉国際芸術祭は、「市民参加」を大きなテーマに掲げているのが特徴の一つ。コンセプトの「ちから、ひらく。」には、千葉の「地」からもの・こと・ひとを拓くこと、多様な「ち」（千葉、地、力、知、宙、超、智…etc.）から創造活動をはじめること、千葉のひとびとの「ちから」が開花することなど、芸術祭で実現したい夢が込められている。 会期：2025 年４月-12 月（集中展示・発表９月 19 日-11 月 24 日） 会場：千葉市内６エリアを中心に展開	
瀬戸内国際芸術祭 2025	https://setouchi-artfest.jp/　**Web 情報**
「海の復権」をテーマに、瀬戸内の島々を舞台に３年に１度開催される現代アートの祭。アート作品と瀬戸内の島々、沿岸部の自然や文化、歴史を同時に体感できる、日本を代表する国際的な芸術祭だ。 会期：2025 年 10 月３日-11 月９日（秋会期） 会場：瀬戸内海の島々９エリア、香川県側の沿岸部の５エリア、全 14 エリアで展開	
国際芸術祭あいち 2025	https://aichitriennale.jp/index.html　**Web 情報**
第６回を迎える本芸術祭の今回のテーマは「灰と薔薇のあいまに」。戦争や環境破壊による“灰”に直面しつつも、それでも希望（“薔薇”）を見出す、両者の“あいま”にある人間と環境の複雑な関係を表現する。 会期：2025 年９月 13 日-11 月 30 日 会場：愛知芸術文化センター、愛知県陶磁美術館、瀬戸市のまちなか	

（インターネットの最終確認日：2025 年８月 26 日）

作成：千葉県立中央図書館